

## 佐倉の高齢者施設 寄付募集



さくら庭園への松植樹の募金活動に向け、謝礼品の食事前掛けを製作した佐倉ゆうゆうの里のサークル「友久会・ミニ」のメンバー（同施設提供）

# さくら庭園へ松植樹を

佐倉市の国名勝「旧堀田邸」の「庭園」で、往時の景観を取り戻そうと、隣接する高齢者施設「佐倉ゆうゆうの里」の入居者有志が、松の植樹資金を集める募金活動を庭園内で始め

た。庭園内の松は害虫が発生するなどして伐採が続いている。謝礼品として手作りの食事前掛けなどを用意し、協力を呼びかけている。募金は27日まで。

バーで、失われゆく庭園の景観に心を痛め「私たちが何かできないだろうか」と思案した末、手芸品を通じた募金活動を思いついた。

今年2月に「友久会・ミニ」を立ち上げ、自分たちのペースで前掛けを製作。カーテンやシーツ、外国製アンティーク洋服などを活用し、利便性に加え記念日にもふさわしい上質なデザインを追求した。仕上がったのがリサイクル品ながら唯一無二の86枚だ。さらに、高級石けんも謝礼品に持ち寄った。

活動で集まった資金は市公園緑地課に全額寄付する。大内さんらは「素晴らしい景観を取り戻すために力を貸してほしい」と呼びかけている。

募金活動は午前10時～午後3時。5千円以上を寄付した場合は前掛けを、3千円以上の場合には石けんを提供する。いずれも先着順。詳細は同施設 ☎043(484)3412。

## きょうまで 謝礼に特製前掛け

同庭園は最後の佐倉藩主、堀田正倫（ほった・まさとも）が明治時代に造営。地域住民や同施設の入居者たちにとって散歩に訪れる憩いの場で、同施設が人気を集める理由の一つになっている。ただ、近年、庭園を象徴する松が害虫などの発生により伐採され、今年だけで7本が消失。残りの木も枝の切断を余儀なくされ、豊かな景観が徐々に失われている。

一本40～50万円に上る植樹資金を集めるため、立ち上がったのが大内倫さんら73～87歳の入居者5人。カラオケやお茶会などを楽しむ同施設のサ

ークル「友久会」のメン